

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

オオムギ網斑病の防除対策の徹底について

オオムギ網斑病が県内各地で発生しています。今後、本病が進展し上位葉が早期に枯れ上がれば、収量、品質の低下など被害を受ける可能性があるため、発生が多い圃場では早急な対応が必要です。

については、下記を参考に、防除の徹底について生産者へ指導をお願いします。

記

1. 発生概況と今後の発生予想

(1) 発生概況

3月5～6日に当センターが行った調査(22圃場)では、発生圃場率54.5%、平均発生茎率0.7%であり、発生程度は低いものの、前回調査(2月22、25日)に比べ、発生圃場率が急増し、県内全域で発生している(表1)。

なお、病斑の発生は下位葉が主体であるが、上位葉に拡大しているものも認められた(写真1、2)。

表1 オオムギ網斑病の発生状況(平成30年度)

2月22、25日		3月5、6日	
発生圃場率	発生茎率	発生圃場率	発生茎率
4.5%	0.1%	54.5%	0.7%



写真1 下位葉に発生したオオムギ網斑病(平成31年3月5日)



写真2 上位葉に発生したオオムギ網斑病(平成31年3月5日)

(2) 今後の発生予想

福岡管区気象台の予報(3月7日)によれば、向こう1か月の九州北部地方における、気温が高い確率が60%、降水量は平年並の確率が40%と予想されていることから、今後も本病の発生しやすい条件で経過すると予想される。

2. 防除対策

- 1) 本病が進展し上位葉が早期に枯れ上がると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こすことから、発生株が散見され病斑が上位葉に進展している圃場では、早急に薬剤防除を実施する（表2参照）。
- 2) 薬剤防除にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。

表2 オオムギ網斑病の防除薬剤

FRAC コード	薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本成分を含む農薬の総使用回数
3	チルト乳剤25	1,000倍	60~150L/10a	収穫21日前まで	1回
3	ワークアップフロアブル	2,000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

病害虫防除のてびきに掲載している薬剤を掲載

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085